

勿來自動車株式會社

湯市運送株式會社

常磐自動車株式會社

磐城自治新報

天皇と世界及び日本人

默堂

神を認め得て 天皇は、世を保つて存在し又活動しつ
界の天皇にあらざる、所以、あると共に絶えず創造破
を覺り我國の淵源は神謀の神代代謝が行はれつ、
りにして、世界の爲の我國あり之れを小にしては太陽
体なると共に、吾人は此國系なる消滅の一家族は廻轉
体の上の大なる世界的使命 飛走牽引放射熱射其他有ゆる
を有することを確信せざる 自治の必要なる作用を行ひ
べからず。

我日本の國體は神の企畫の見るに間断なき創造破壊に
表現なり、又神化せる國體 依り生産情滅の現象息むこ
なり、此の國體の發揮に依り或は又風となり雨と
りて現在の文化は更に神化 たり或は循環して止まる所な
に進み、全世界の神化は人 類の安定境を現實すべし、
是に於て現界に對する神の 企畫は到達し人類の幸福は
之れを絶頂とす。

但し意の馳する所筆是に 伴はず、紙上の説明自ら欠
如あるを免れず、讀者之を 諒せられよ。
一、信仰の極致
宇宙は吾人の宇宙にあらず 宇宙は却て吾人を包有す隨
つて吾人は宇宙の支配を受 けるものなり此の宇宙夫れ
何物ぞ唯空漠たる無限の空 所に過ぎざるか、然るに此
空所と見らるる所は幾多の 氣體物体を以て填められ此
等が縦横に且つ一定の秩序

發行日 一月十五日(毎月二回)
編輯印刷 箱崎義一
兼發行人 箱崎義一
發行所 磐城自治新報社
紙代 一部十銭送料共
廣告料 五號十二字詰一行金五
十銭場所指定金壹圓

初の明治節

賢所三殿で御祭りを
執行 勅語を賜はる

來る十一月三日は明治節御
制定以來最初の佳日である
が宮中では當日午前九時四
十分賢所三殿に於て明治節
祭を御執行文武百官、外國
大使等の參賀陪宴を行せ
られ畏くも優渥なる勅語を
賜はるのであるが、明治節
宮でもそれ、祭典を行は
せらるる筈。

◎次の日には
必ず國旗を掲揚して
心から御祝ひいたしませう
十一月三日 初の明治節
全 十日 即位式
全 十四日 大嘗祭
全 十六日 大嘗第一日
大嘗祭を行はる、ときは
廿三日の新嘗祭をいたし
ません從つて廿三日は休
日であります。

大名行列で有名な
釜戸の諏訪神社
近々縣社に昇格せん
石城郡湯本町大字釜戸鎮
座諏訪神社を御大典記念事
業として縣社に昇格せしむ
べく同社氏子總代大友利治
外二百余名は連署を以て縣
に上申した。

横暴極まる一本松電氣 需要家の憤慨日に高まる

磐城村より玉川、小名濱方面のみか、甚だ疑はしいも
面に電力の供給をなす二本の電線、石油ランプや蠟
松電氣會社にては、停電の燭の用意は厄介千万である
頻繁なる實に驚くべき状態 朴質なる農民として愚者扱
に、而かも夕食の準備にひは恐入る、不遜極まる營
忙しい時に、よく停電する業振りである、今にして反
一夜点燈せざる時も屢々で 省せずんば他に煩發する電
ある、少しの風雨でもすぐ 力争議が爰にも勃發せん、
停電である、電力使用者に 一年も二年も昔のラ
も非常なる迷惑と、損害を ンブに大した不便は感じな
與へて居る、而かも一回の い、我等は近く會社に糺す
釋明も陳謝もない一昨年の 處あらんといきまいて居る
暮より昨年の正月にかけ殆 ものものもある、磐崎、玉川、
んを半日の送電で一月一 小名濱、江名、鹿島と相連
割五分が二割引した丈で合 して事に當るといつて居
である、吾人は不可抗力と 原川に發電所を設け村營が
認めない、他の東部電など よいと、研究の聲を進めて
では平氣送電して居るでは 居るものもありと聞く、二
ないか、不完全な設備で最 本松會社、よく眼を開け
も高い料金を取り最も多く て、根本的に營業方針の改
需要者に損害をかける、會 善をなせ
社當局者は良心の麻ヒせる (村の人々)

入山炭礦立國自治會
御大典奉祝の爲め
全炭礦坑務所に菊花生花大會を開催す
入山炭坑友子幹部の
改選を期して
組合の整理改善に務む
石城郡湯本町入山炭礦交際
行くと二里餘にして漸く
山の入口につき家數軒あり
先の一行は何處迄進んだか
の氣分である雞の鳴き聲も
何となく懐しい感がある。
山が家に雞の鳴き聲が聞
く。

湯の嶽川柳吟行
わが磐崎村は福島縣石城郡
の東南に位する、カナリ大
さい村である、人口は一萬
餘を算する、東西數里に亘
る間を縦断する藤原川とい
ふがある、近來時々大出水
沿岸に氾濫して耕地の被害
甚しく、時には人家を押し流
し數名の死傷者も出た事
事がある、十月十八日之が
水源地の實地探査に村會
員一同出向く事になつた、
然し此日は生憎雨天であつ
たので、十月十九日に延び
た、秋晴れの氣持のよい日
である、朝は何かと忙がし
いのを大急ぎで、九時半一
片をつける、他の人達は一
足先に出かけた、吾と酒井
氏の二人は遅れて後から皆
の跡を追ふた。
目指す處は當地に於て閑伽
井嶽と並び稱せられる湯の
嶽である、海拔一千八百餘
尺、毅然として周囲の群山
を壓して高く聳えて見える
秋の空響ゆる山に氣が勇
遠足の氣分で急ぐ秋の山
路と別の方面から歸る、見下す西北は何處迄も山積
しか見えない、下り坂は急で膝頭がカク／＼する
へ古垂れた聲を出させる膝頭
山を降つた頃には、三日か四日位の月が西の空にか、
歸り途引きづる様に歩を運び
半分は杖に曳かれる疲れ足



山の秋

丸山一郎鈴木鐵造倉島万七
齊藤伊三郎加藤菊造小川定
衛の諸氏が整理委員となり
友子一同の爲め同會の改善
會計の整理に當つて居る。

谷川の橋は飛石傳へなり
愈々藤原川の水上になる、山間ひのスキは空も見え
ぬ處がある、
さし招ぐ月も見えない枯尾花
谷間ふく風に木の葉が鳴るばかり
紅葉にはまだ早いだん、路は形ばかりで峻しくなる
靴で来る積りをゴム足袋にしたので大助かり、
岩を飛び越し崖を傳へ、全く昔其まゝの景色で、岩を
噛んで流れる水は瀧となり急湍となり下る、
谷の水ジャズとダンスで流れ落ち
余程来たナと思ふ頃大聲を上げて叫ぶ、御もな、行
く事暫く、再び大聲を揚げた時オーといふ返事が
聞える、先行の一隊である、
一行の所在が知れて胸を撫で
間もなく一緒になる、余程待つて居た事であつた
人員總て十三名となる、崖は益々烈しい、汗はドン
／＼流れる、空腹の加減になる、疲れは加はる、斯く
十二時過、此の人里離れた山奥の三四軒ある田代と
云ふ處についた。こんな處に住んで何の樂しみがある
かと思はれる、稲は夏の冷氣のために、皆立つて居
る、實の入つたものは一粒か十粒が一本の穂にある丈
刈り賃もあるまいと思はれる。
只生きて居る丈と云ふ山住居
此所で晝食にする、四合瓶を二本斗り携帶した人があ
つた、渴を覺え腹は空く、これへ一杯冷で傾ける清酒
の味は又格別と皆んなが舌鼓を打つ、殆んど呑めぬ吾
も二三杯を乾した、約一時間斗り休みのより山奥へ踏
み込む、栗の森である、本當の藤原川の水源地である
此度此の林をさるといふのだ、保安林にすべきが正當
の處と思ふ、栗はイガ斗りで實はない、
實はなくて足に踏まれる、イガ斗り
藤原川の水量は昔から見ると比較にならぬ程である
禿山に水が潤れて、里の川
木をきつて水源と言ふふ虫の好き
木のある所はジメ／＼して居る、そして此邊が馬の放
牧地となつて居る、柵を廻らして置く、椎茸があつた
と叫ぶ者がある、
朽柵に椎茸あつた一騒ぎ
午後三時十分此の田代を後に下山の途についた、來た
路と別の方面から歸る、見下す西北は何處迄も山積
しか見えない、下り坂は急で膝頭がカク／＼する
へ古垂れた聲を出させる膝頭
山を降つた頃には、三日か四日位の月が西の空にか、
歸り途引きづる様に歩を運び
半分は杖に曳かれる疲れ足

植田町 磐城無盡商會 營業狀況の解剖

歐洲戰役後の好景氣より俄ものがする、然るに無盡然財界の大動搖を來し、引會社の業にあつては、中産續く不景氣に四方悲嘆の聲以下の者多く零碎なる金ををき、地方財界にも影響苦面して、之を積み將來にする處大に、當縣下に於て備へ又は之をセリ以つても銀行の休業、又は破産状態にするもので、中には態にあるもの出て、金融界血を搾つて出して居るものは實に安心ならぬ現況で磐城銀行は直接地方に一大恐に誠心的になさねばならぬ。若しも無盡商會にして一朝従業員は十數名其契約高は不正事件や不法の行約三百万圓と稱せられる、爲などあつて營業上欠陥を見る様な事あらば其影響する處銀行の休業處でない眞剣な憂ふべき事が勃發すか、じやが出るか刮目然し一面預金は幾分余裕あるであらう、されば加入者

郡下第二區 教員庭球大會

於て開催さる

湯本入山小學校主催本社後内外は人垣を以て造られ必勝となり、兩校選手の壯烈援の本郡第二區教員庭球大會を期すべく、猛練習を開始し、本郡第一區と對戦し、本郡第一區を破つて、本郡第二區に於て開催本社寄附川會長の試合に關する注意に落ち、會長の閉會の辞あ贈の優勝カップの榮冠果しあり何れも充分なる自信をもち、午後四時盛會裡に閉會せ

湯本校	阿部	長倉校	猪爪
入山校	阿部	渡邊校	今野
湯本校	鈴木	磐崎校	小林
入山校	阿部	江名濱	小田
湯本校	高木	湯本校	松崎
入山校	阿部	湯本校	松崎

湯本校	阿部	藤原校	木田
入山校	阿部	藤原校	佐藤
湯本校	鈴木	入山校	岩田
入山校	阿部	江名濱	小田
湯本校	高木	湯本校	松崎
入山校	阿部	湯本校	松崎

はよく營業者的人格其内容等を精査し、後日臍をかむの愚を學ばぬ様細心の注意が肝要である、幾分にて損害等蒙らぬ様豫め心掛がくべきである、今後金融輸出解禁等の事あり、一時財界は又々一大變動を來す覺悟を以て居ねばならぬ

努力の賜

石城郡錦村では御大典紀念事業として有意義なる施設を起さんと過般村會を召集し、村長金成通氏の主唱により、村内各戸より幾分づきの寄附を徴知すべく種々研究中附を募り小學校基本財産を爲すに如何と雖も貸金は

- 名六 渡邊一 植田一二 名の入選者を出して居るこ
- 泉一 山田二 勿來五 入
- 遠野一 川部四 田人 四
- 下三坂一 差置二 神谷八
- 草野五 大浦八 四ツ倉二
- 大野二 平窪一 小川六
- 桶賣一 平第二、七 夏井
- 三 豊間六 江名九 小名
- 湯本二四 入山七 内郷六
- 内郷第三、九 好間一六
- 好間第一、赤井一 箕輪
- 高二 藤田正二 堀文男
- 岡崎マ子 内藤肇
- 尋三箱崎緩子 以上書方
- 尋三箱崎緩子 以上書方
- 尋三箱崎緩子 以上書方

小學校基本財産の造成

石城郡勿來町農會で全町内を起さんと過般村會を召集し、村長金成通氏の主唱により、村内各戸より幾分づきの寄附を徴知すべく種々研究中附を募り小學校基本財産を爲すに如何と雖も貸金は

に於て湯本小學校は貳拾四見る事は出さず只掛員が總認めた權利の主張が出来計の上で知るのみ町内のないとすれば國家が認めた

公設辨護士制度

折笠利一 護士を置く公設の辯護局を法律は社會の秩序維持のため設定して憲法の何人も法律に制定せられた規則で國の定めたる裁判の權を奪は

讀者の聲

磐城銀行の練兵休も第五回目を自ら病氣を求め今更快復の見込があるかの様に度々軍醫を誤魔化すとは全く非國民の大惡魔の最後を知らずば教へてやる大敷綱にかゝるぬ先に白井一家の私財を投げ出せ。

展覽會

本縣各小學校兒童學業成績品展覽會に於て本郡より入選したる各小學校点數左の

勿來町農會の經濟狀態調べ

石城郡勿來町農會で全町内を起さんと過般村會を召集し、村長金成通氏の主唱により、村内各戸より幾分づきの寄附を徴知すべく種々研究中附を募り小學校基本財産を爲すに如何と雖も貸金は

常磐線湯本驛前

藤原第二小學校の祝賀式

藤原第二小學校の祝賀式

高岡自動車部 次號ヲ御大典紀念號とし八頁頁 大日本商事正行社

建徳寺境内三百餘坪 突然八尺餘大陥落

地方未曾有の慘狀 石碑や杉木が折重なつて倒壊

石城郡磐崎村大字藤原寺彦次郎氏は急遽區民大會を方建徳寺境内三百餘坪が去開き前後策を講じつつある二十五日午前一時頃突然...

磐城裁縫女學校長

高木芳太郎氏の美譽

湯本町に私立圖書館が生る 石城郡湯本町磐城裁縫女學より之れが實現を期すべく校長高木芳太郎氏は御大典町長小泉巳代喜、校長前川...

弓道とは何ぞや

こゝに弓道といふことは日に矢を射あてんには成る可本の弓道のみならず矢を真直に早く射よばすこと...

堀による陥没ではない即ち陥没箇所は水平面より百尺杵尊に賜りし三種の神器...

日本は盛に流行して居る國はあつた。日本に於て斯く迄に弓道が發達進歩し又連綿として來たに就ては少くも一つの大なる原因がある、その一は國民性によく適合することである...

無味の味 呑海 一體徳徳とか修養とかに關する話は變化もなく面白味もなく平々凡々明々白々である...

共同主義の金融機關 僅かの掛金でまごまる資金 御大典新會員大募集 今秋の御大典の記念事業 貴下の家庭にお奨めする

◆ナゼ不景氣ですか？ 無盡の中で一番よい湯本式 貯金にも融通にも有利な

◆民衆の金は民衆へ！ 地方の金は地方で融通したい、地方の金まはりをよくして不景氣の風をお拂ひしたい。不景氣の追拂ひ役は、湯本無盡につとめさせ下さい。

◆絶好の記念事業！ 町でも村でも個人でも、今秋の御盛典記念したいと思ふことは庶民の情であります。貴下の家庭では何を御選になりますか。

湯本無盡は、貯蓄にも融通にも有益である上、中央集金の弊を打破して、地方の金を潤澤にするものであります。御大典記念にはゼッ湯本無盡へ御加入下さい。

◆營業案内呈上 社員參上説明 福島縣石城郡湯本町二二五 大藏省湯本信用無盡株式會社 電話 四七番 振替仙臺七九六四番

◆絶好の記念事業！ 町でも村でも個人でも、今秋の御盛典記念したいと思ふことは庶民の情であります。貴下の家庭では何を御選になりますか。

◆民衆の金は民衆へ！ 地方の金は地方で融通したい、地方の金まはりをよくして不景氣の風をお拂ひしたい。不景氣の追拂ひ役は、湯本無盡につとめさせ下さい。

◆絶好の記念事業！ 町でも村でも個人でも、今秋の御盛典記念したいと思ふことは庶民の情であります。貴下の家庭では何を御選になりますか。

◆營業案内呈上 社員參上説明 福島縣石城郡湯本町二二五 大藏省湯本信用無盡株式會社 電話 四七番 振替仙臺七九六四番

◆營業案内呈上 社員參上説明 福島縣石城郡湯本町二二五 大藏省湯本信用無盡株式會社 電話 四七番 振替仙臺七九六四番

◆良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント會社特約店
和洋銅鐵
釜釜釜屋商店
金物問屋
確實敏捷は釜屋の生命なり
磐城平町電話一三九番

醬油味噌鯉節
醸造元 山崎合名會社
平町 營業部 電話十番
工場 二十七番
酒類罐詰食料品

常磐線湯本驛前
正丸正運送店
親切敏捷は正の力ギ
主任 武田精一
平營業所

ナコソの味噌醬油
勿來町 升田屋本店
赤津庄兵衛
電話一番

都々逸
醉醉の郷
醉醉の郷
醉醉の郷
勿來町 赤津酒造店 電話三番

花井の 勿來町
大平酒造店
電話五七番

御代武兵衛
讓造元
御一番

萬積物 電三七番
片寄金作
新富士屋號
勉強は金ちやんの生命なり

稻妻 古川
醸造元 傳一
町田植電
高萩三郎
鹿島村

清水屋
清水屋
清水屋
清水屋
電話六番

「都々逸」
神白礦泉
伊藤國造
小名濱ヨリ自動車軌道の便あり
客間數十の設備あり

各肥
セメント販賣
大和屋商店
小泉菊彌

七面鳥
成雞
分讓
岩瀨藥店
青木元治
湯本町

鳥面七
成雞
分讓
岩瀨藥店
青木元治
湯本町

川部村役場
村長 兒玉萬平
助役 加茂元吉
郵便局長 小野魯魯平
四時川讓造 川部村

川部村會議員
須田國松
芳賀雄一
高木寅松
園部幹治
蛭田勘四郎
兒玉太久

沼知寫真館
御大典紀念ニ付特ニ勉強シマス

吉田恭平商店
湯本町電五十八番

菊地時計店
湯本町 電四三番

學務員 小野寅藏
川部村區長 村田市太郎
平山哲之助
小野竹與
園部道之助

軍人分會長 蛭田喜一
川部村 松の屋
安島民次郎
三澤礦泉

石碑彫刻 燈籠各種 馬目石材店
湯本町

泉屋洋服店
御大典紀念ノ爲メ特ニ勉強シマス

栗原森之助
湯本町 電十六番

電氣アイロン 岩崎理髮館
有利副業 カナリヤ小鳥
藤原瀧 欽平

有志家 田子嘉吉
川部村 鳳城炭礦株式會社
常磐線植田驛前

岡田炭礦業所
植田町出張所

炭坑礦業所
植田町 石塚國太郎

山添炭礦業所
植田町 山添次郎
花の井譽 田丸屋商店
田子稔
平和削製製造元 鈴木道太郎商店
磐城屋號 湯本驛前

小川 勿來問
常磐自動車株式會社
湯南運送株式會社
湯本町 電話三番